

[再編] 第2回研究大会プログラム

※セッションの各発表の間に置かれている5分は、Zoom接続準備の時間となります。

2020年11月28日(土)			
12:30	オンライン接続開始		
18:00-18:05	開会挨拶 長津一史 (オンライン大会実行タスク・フォース責任者) (A会場)		
	【セッション1A】 視覚資料からのアプローチ (A会場) 司会: 青山 亨 (東京外国語大学)	【セッション1B】 地域社会のダイナミクス (B会場) 司会: 小池 誠 (桃山学院大学)	【セッション1C】 データが拓く新たな地域理解 (C会場) 司会: 林 蒼吾 (東京大学)
18:10-18:50	坂井 隆 (台湾大学・客員教授) ジャワ・マレー様式モスクの形成 —アチェ、インドラブリ古モスクの文化的意味	中川 敏 (大阪大学・名誉教授) 従われない規則を守るしかた —エンデにおける「母方交差イトコ婚」	中島 百合子 (Universitas Air Langga大学院・院生) 東ジャワの貧困の要因分析と教育の所得向上効果
18:55-14:35	青木 澄夫 日本市民が撮影したオランダ領東インド	杉野 好美 (京都大学大学院・院生) インドネシアの地域社会における行商婦人のジャムウ飲料 の行商と利用—中部ジャワ州村落の事例	梶田 諒介 (総合地球環境学研究所) 1879-1900年の植民地期スマトラ島における24観測地点の降 雨観測記録の復元
14:40-15:20		南家 三津子 (京都大学・前連携准教授) オートバイと若者 —東ジャワ海外出稼ぎ村における顕示的消費	Yoshifumi Azuma (Ritsumeikan University) & M. Nizamuddin (Syiah Kuala University) The Nature of Acute Deforestation in Aceh after Tsunami Using GIS Data in 2015 and 2020*
15:20-15:30	休 憩		
	【シンポジウム1】 アブラヤシはインドネシアに何を提起したか?—日本の研究者・NGOの立場から考える (A会場)		司会: 永田 淳嗣 (東京大学) コメンテーター: 岩佐 和幸 (高知大学)
15:30-18:10	プログラム委員会・林田 秀樹 (同志社大学)	趣旨説明	
	林田 秀樹 (同志社大学)	アブラヤシがもたらした「豊かさ」の維持と「偏り」の克服	
	嶋村 鉄也 (愛媛大学)	熱帯泥炭湿地におけるアブラヤシ農園をめぐる環境問題と科学的知見	
	寺内 大左 (東洋大学)	東カリマンタンの焼畑民はアブラヤシ農園開発をどう見たか	
	飯沼 佐代子 (地球・人間環境フォーラム)	パーム油のエネルギー利用に関する日本のNGOからの働きかけ	
18:10-18:20	休 憩		
	【弾丸プレゼン/Lightening Talk】「わたしの研究」(A会場) ※本セッションでは、質疑応答の時間は設けられていません。		司会: 森下 明子 (立命館大学)
18:20-18:50	上石 景子 (南山大学大学院・院生)	古ジャワ文学の伝統の中で受容される『ガトーカチャーシュラヤ・カカウィン』	
	阿由葉 大生 (東京大学大学院・院生)	福祉国家像、国家-地方関係、反腐敗—国民健康保険から見たジャカルタ世相と生政治	
	Riskina Juwita (東京農業大学・特別研究員)	インドネシアにおけるナツメグ産業の展開と課題に関する実証的研究	
	柳澤 沙也子 (甲南女子大学大学院・研究生)	ロンボク島における高齢者の健康状態と医療へのアクセス	
19:00-20:00	オン ラ イ ン 懇 親 会 (A会場)		
2020年11月29日(日)			
9:00	オンライン接続開始		
	【セッション2A】 地域経済の歴史的探究 (A会場) 司会: 大橋 厚子 (名古屋大学)	【セッション2B】 海の世界の生業と知識の所在 (B会場) 司会: 赤根 淳 (一橋大学)	【セッション2C】 組織と経済のポリティクス (C会場) 司会: 川村 晃一 (アジア経済研究所)
9:30-10:10	泉川 普 (愛知県立大学・元客員研究員) 1930年代末におけるジャワ東端部のコモ流通と食料備蓄政 策—精米業者・銀行・植民地政庁	明星 つきこ (金沢大学大学院・院生) 南スラウェシにおける木造船づくりの現状 —生産体制と船大工のキャリア形成を中心に	中島 健太 (南山大学・非常勤講師) インドネシア警察のリーダーとは誰か?—歴代国家警察長 官 (1945年-2019年) の経歴分析を手掛かりに
10:15-10:55	増田 和也 (高知大学) 小さな支流に生まれた大きな賑わい—1950年代のリアウ陸 部における対外貿易システムの変遷	間瀬 朋子 (南山大学) インドネシア・オーストラリア境界海域世界にみる生業様 式の変化—ロテ島漁民の経験知と合理性	小西 鉄 (福岡女子大学) インドネシアにおける国有企業に対する金融監督の実効性 —国有ジワスラヤ保険会社事件からの一考察
11:00-11:40		中野 真備 (京都大学大学院・院生) パンガイ諸島サマナの環境認識 —外洋漁撈をめぐる魚類・漁場・目標物の民俗分類	吉田 航太 (東京大学大学院・院生) 「社会」機械としての開発 —環境コンテストと「マシヤラカット」の生成
11:45-12:05	運営委員会報告 加藤剛 (共同代表責任者)、林田秀樹 (会計担当責任者) (A会場)		司会: 菅原 由美 (大阪大学)
12:05-13:00	昼 食 休 憩		
	【シンポジウム2】 新型コロナウイルスとインドネシア (A会場)		司会: 太田 淳 (慶應義塾大学)
13:00-15:40	加藤 剛 (京都大学・名誉教授)	趣旨説明	
	加納 啓良 (東京大学・名誉教授)	新型コロナウイルスの地域的拡大過程と近隣主要国との比較	
	中村 安秀 (甲南女子大学/大阪大学・名誉教授)	インドネシアの保健医療にコロナが与えたインパクト	
	本名 純 (立命館大学)	ジョコウィ政権のパンデミック政治	
	佐藤 百合 (アジア経済研究所)	経済的影響と今後の展望	
15:40-15:50	休 憩		
	【パネル】 A Digital Approach to Cultural Heritage Management in Indonesia: The Borobudur Project* (A会場) 司会: Fadjari I. Thufail (LIPI)	【セッション3A】 民族と宗教の動態 (B会場) 司会: 森田 良成 (桃山学院大学)	【セッション3B】 自然環境と生活保全 (C会場) 司会: 奥島 美夏 (天理大学)
15:50-16:30	Fadjari I. Thufail (LIPI) & Sugeng Riyanto (Yogyakarta Archaeology Office) Digitizing Borobudur as a Cultural Landscape	小池 誠 (桃山学院大学) 東部インドネシア・スンバ社会におけるマラブ信仰と人権 をめぐる動き	山中 大 (総合地球環境学研究所/神戸大学・名誉教授) COVID-19感染の人口密度依存性に基づくインドネシア日本 両島嶼国家のサステナビリティ
16:35-17:15	Liang Li (Ritsumeikan University) 3D Reconstruction and Visualization of Borobudur Temple	大澤 隆将 (総合地球環境学研究所) スク・アスリの先住民性と宗教選択	金子 正徳 (摂南大学) Yuk, Cuci Tangan Pakai Sabun! —清潔さをめぐるインドネシアの文化変容について
17:20-18:00	Hiroshi Yamaguchi (Nara National Research Institute for Cultural Properties) 3D Scanning of Borobudur Temple and Dissemination of the Measurement Technology	中村 昇平 (金沢大学大学院/日本学術振興会) 集落と民族の帰属意識はいかに両立するか —ブタウィ人の武術と演劇の実践から	加反 真帆 (京都大学大学院・院生) 泥炭保全政策からみた泥炭回復と生計向上のパラドクス —インドネシア・リアウ州R村の事例
18:05-18:10	閉会挨拶 倉沢愛子 (カバル共同代表) (A会場)		

* Presented in English